

徳島県の活かしたい生態系リスト

令和 年 月

徳 島 県

目次

1	はじめに	1
2	生態系とは	2
3	「徳島県の活かしたい生態系」選定の流れ	2
3-1	生態系区分の考え方	2
3-2	選定基準	3
4	選定結果	4
4-1	「徳島県の活かしたい生態系」のリストと それらの分布	4
4-2	「徳島県の活かしたい生態系」を特徴づける 景観、生物群等	8
5	「徳島県の活かしたい生態系リスト」の活用	14
	(参考) 希少野生生物の整理	15

1 はじめに

徳島県は、西日本第二の高峰剣山など雄大な山岳地形を有する「剣山国定公園」や、ウミガメの産卵にも適した変化に富んだ海岸線を持つ「室戸阿南海岸国定公園」など、多様な自然環境に恵まれております。古来より、私たちはこの豊かな自然から多くの恩恵を受け、特色ある文化や地域資源を活かした産業などを育んできました。

このような自然豊かな環境と、そこに息づく多種多様な野生生物は、私たち県民はもとより、地球上に生きとし生けるもの全ての貴重な財産であり、未来に引き継いでいくべきかけがえのない宝であり、本県では「癒しの郷とくしまの実現」を目指し、平成30年10月に「生物多様性とくしま戦略2018-2023」を策定しました。

世界では、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられるとともに、国内では「気候変動適応法」が成立し、適応策に本格的に取り組むこととなり、本県では国に先駆けた「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例（すだちくん未来の地球条例）」の施行による取組みを充実させるなど、自然環境を取り巻く状況も大きく変化しています。

徳島県は「生物多様性とくしま戦略」で「生物多様性という地域資源を活かしたコンパクトな循環型社会の実現」を目標に掲げ、達成に向けた施策を進めています。「生物多様性とくしま戦略2018-2023」では、県民の財産として将来に引き継ぎ持続的に活用していくべき貴重な生態系を「とくしま生態系レッドリスト（仮称）」として公表することを重点プロジェクトの一つとしました。「徳島県の活かしたい生態系リスト」は、こうした背景のもとで策定されたものです。選定にあたっては、徳島県希少野生生物保護検討委員会に選定基準と手法をご検討いただきました。

市町村、事業者、市民団体、県民の皆さまにおかれましては、貴重な生態系を資本とする地域づくりを行っていくために、「徳島県の活かしたい生態系リスト」をツールとしてご活用ください。

2 生態系とは

生態系とは、ある地域に住むすべての生物と、その地域内の非生物的環境（水分、地質、栄養塩等）からなるシステムです。そのシステムは、そこに生育・生息する生物同士が関係しあうことによって成り立っています。

生物の生育・生息環境は、日照・土壌・水分などのいろいろな無機的要素が複雑に絡み合い、さらに様々な分類群の生物が相互に影響し合って生育・生息しています。その相互関係は、食う-食われるの関係であったり、共生・寄生関係であったり、または、直接ではなく環境の変化を通しての間接的な影響を与える生物同士の関係であったり様々です。生態系は、食料や木材を供給してくれます。良質な生態系を持つ地域には、多くの人々が癒しを求めて訪れます。森林は雨をうけとめて河川への流出量を調整することで、また湿原は溢れ出した河川水を貯留することで、暮らしの安全性を高めてくれます。生態系は人々が安心・安全な暮らしを行って行くうえで欠かせない「インフラ」だと言えます。複雑で多様な関係性によって成り立っているインフラとしての生態系を、人間の手で新たに創り出すことは不可能です。そのため、生態系はそれぞれの地域に固有のインフラとして、その機能が将来にわたって発揮されるよう維持管理していく必要があるのです。

このような考えのもと、徳島の生態系を将来にわたって活用していくうえで特に注意を払って維持管理していかなければならない生態系やそれを含む地域を抽出し、「徳島県の活かしたい生態系リスト」としてとりまとめました。

3 「徳島県の活かしたい生態系」選定の流れ

3-1 生態系区分の考え方

生態系の種類は、大きくは気温や降水量等の気候要因、地形・地質要因によって異なります。そして、一つの山塊全体を含む大規模な生態系として抽出することも、その大生態系を構成する森林や草原等の個別の小規模な生態系として抽出することもできます。岩角地や石灰岩・蛇紋岩地等、特殊な環境にのみ成立する生態系も存在します。このようなことから、「徳島県の活かしたい生態系」は、景観的な区分（景域）と広がり（大きさ）とを用いて、階層的に区分しながら抽出することとしました。

表 3-1 生態系区分の考え方

景域	スケール	備考
山地	大生態系	四国山地東部の自然度の高い森林とその周辺約 500m を囲んだエリア (1000km ² 程度)
	中生態系	徳島県に特徴的な自然度の高い森林、あるいは特殊な地質の地域に現れる植生がまとまったエリア (概ね 4 km ² 以上)
	小生態系	面積が 4 km ² 以下の自然度の高い群落がみられるエリア
平地	大生態系	ため池の密度が高く、湿地的な環境が広く残されているエリア (概ね 100 km ²)
	中生態系	1 km ² 以上の湿地環境が残されたエリア
	小生態系	小規模な湿地環境及び平地に残された緑地がまとまったエリア (概ね 1 km ² 以下)
河川	大生態系	徳島県における主要な河川とその流域
	中生態系	汽水域や干潟群、あるいは河川沿いにまとまった植生がみられるエリア (概ね 2 km ² 以上)
	小生態系	汽水域や干潟群、あるいは河川沿いにまとまった植生がみられるエリア (概ね 1 km ² 以下)
沿岸	大生態系	沿岸部および島嶼周辺の海域 (陸域より半径 5 km 圏内を含むエリア (概ね 25 km ² 以上))
	中生態系	海岸植生や湿地等がまとまって見られるエリア (概ね 1 km ² 以上)
	小生態系	湿地や砂浜等 (1 km ² 以下)

3-2 選定基準

こうした生態系区分の方法に基づき、多様な野生生物が生育・生息し、次のいずれかの要件を満たす場（生態系）を抽出しました。

- ア 希少な野生生物が生育・生息する生態系
- イ 特殊な立地環境に生育・生息する種の生態系
- ウ 自然度が高く脆弱な生態系
- エ 文化的・景観的な価値が高い生態系

選定は以下のように進めました。

- 徳島県内で生物調査を行ってきている専門家へのヒアリングを行い、多様な野生生物が生育・生息し、今後、地域資源として活用を図っていくために

保全管理が必要と思われる場所を抽出。

- 環境省による自然環境保全基礎調査植生調査による 1/25000 植生図および植生自然度による区分を参考に，生態系としての空間的な広がり把握。
- 生態系の保全管理は，単一の生態系だけでは不十分で，隣接する連続した生態系も含めて保全管理することが重要であることから，連続性のある近隣の生態系も含めて一つのまとまりとして指定。
- 湿地（ため池や水田等を含む）や沿岸域など，周辺の連続した水域などの影響を受ける生態系については，水域の連続性を考慮。
- 小生態系のうち，希少種の盗掘等が発生する可能性があるものについては，具体的な種名は示さない。

4 選定結果

4-1 「徳島県の活かしたい生態系」のリストとそれらの分布

「徳島県の活かしたい生態系リスト」には大・中・小あわせて104のエリアを選定しました。

大生態系は17エリア選定し，剣山山系などの四国山地，吉野川や勝浦川，那賀川の水系などの流域，牟岐大島や竹ヶ島周辺域など島嶼・海域が含まれます。

中生態系は37エリア選定し，吉野川河口干潟，勝浦川河口干潟，那賀川河口干潟などの河口干潟や高丸山や高越山周辺域に残る自然林をエリアとする森林，海浜，里地，などが含まれます。

小生態系は50エリア選定し，干潟，海岸林，ため池，砂浜，湿地などが含まれます。

表 徳島県の活かしたい生態系

景域	大生態系		中生生態系		小生態系			
	番号	名称	番号	名称	番号	名称		
山地	L01	四国山地東部	M01	剣山、三嶽、天狗塚、高の瀬、石立山周辺の自然林	S01	三嶽～天狗塚の稜線の風衝草原		
			M02	落合峠を中心とする自然林（冷温帯）	S02	矢倉山周辺の自然林		
			M03	轟ノ滝を中心とする自然林	S03	石堂山周辺の自然林		
			M04	大妻谷ダム周辺の蛇紋岩地帯	S04	ザガリハゲ山周辺の自然林		
			M05	高丸山・豊早山・高城山の自然林	S05	落合峠のササ原		
			M06	西又山を中心とする自然林（暖温帯）	S06	高丸山周辺の自然林		
			M07	亀谷山東側の自然林（暖温帯）	S07	豊早山周辺の自然林		
			M08	石立山周辺の石灰岩地帯	S08	山犬塚周辺の自然林		
			M09	末籠寺山周辺の石灰岩地帯	S09	西三子山周辺の自然林		
			M10	黒沢温泉と周辺森林	S10	紫小窪山周辺の自然林		
	-	-	-	-	-	S11	葉研谷周辺の森林	
				-	-	S12	高城山周辺の自然林	
				-	-	S13	水の口湿地周辺の自然林	
				-	-	S14	黒沢温泉	
				-	-	S15	琴峰中腹～和田集落一帯の里地山肌及び中間温帯林の社叢群	
				-	-	S16	塩塚高原の草原	
				-	-	S17	国見山周辺の自然林	
				-	-	S18	鶴定山の自然林	
-	-	-	-	-	S19	多美湿地及び周辺の林		
			-	-	S20	阿佐灰山の自然林		
			-	-	S21	雲辺寺周辺の自然林		
			-	-	S22	大塚山周辺の自然林		
			-	-	S23	大坂峠周辺の自然林		
			-	-	S24	桃源洞周辺の石灰岩地帯		
			-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-
平地	L02	吉野川北岸のため池群	M11	高越山周辺の自然林	-	-		
			M12	阿波市の自然林	-	-		
	L03	讃岐山麓のため池群	M13	城王山周辺の自然林	-	-		
			M14	西ヶ峯から瀬戸山周辺の自然林	-	-		
	L04	阿南ため池群	M15	伊勢田川上流域の自然林	-	-		
			M16	八郎山周辺の自然林	-	-		
	-	-	-	M17	竜王山から大滝山周辺の自然林	S25	大滝山山頂の自然林	
				M18	野鹿池山から黒滝山周辺の自然林	S26	野鹿池山山頂の湿地及び周辺の自然林	
				-	-	S27	旭ヶ丸周辺の自然林	
				-	-	-	-	
-				-	-	-		
-				-	-	-		
河川	L05	吉野川	M19	鳴門市の水田・八入田	-	-		
			-	-	S28	榑町北部のため池群		
	L06	勝浦川	-	-	S29	善入寺島のため池群		
			-	-	S30	シヨウマル池とその周辺の林		
	L07	那賀川	-	-	S31	日出漁港周辺湿地		
			-	-	-	-		
	L08	桑野川	M20	小松島ため池群	-	-		
			M21	海部ため池群	-	-		
	L09	福井川	M22	四方原の水田及び水路網	-	-		
			M23	大津田川周辺の湿地・水路網	-	-		
	L10	日和佐川・北河内川	-	-	S32	徳島市城山公園		
-			-	-	-			
L11	海部川・母川	-	-	-	-			
		-	-	-	-			
沿岸	L12	鳴門から小松島湾の沿岸域	M24	吉野川汽水域・干潟群	-	-		
			M25	勝浦川汽水域・干潟群	S33	龍瀬川干潟・フンド		
	L13	蒲生田岬沿岸	M26	那賀川汽水域・干潟群	-	-		
			M27	那賀川の深流沿いの植物群落（中流）	S34	長安口ダム堰周辺		
	L14	穴喰浦から蒲生田岬の海岸線	M28	桑野川汽水域・干潟群	-	-		
			M29	播川	S35	福井川干潟		
	L15	伊島、獅子島とその周辺海域	M30	播川汽水域・干潟群	-	-		
			M31	伊勢田川	-	-		
	L16	出羽島、牟岐大島、津島、小津島とその周辺海域	M32	大毛島の海岸植生（東部海岸）	-	-		
			M33	日和佐・由岐周辺海岸	S37	月見ヶ丘海岸の砂浜		
	L17	竹ヶ島と周辺島嶼およびその周辺海域	M34	那賀半島周辺の干潟、湿地、自然林	S38	小松海岸の砂浜		
M35			蒲生田海岸の湿地群及び周辺の林	S39	大神子の海岸マツ林			
-	-	-	-	-	S40	松島地区干潟		
			-	-	S41	大潟干潟		
-	-	-	-	-	S42	淡島海岸の砂浜		
			-	-	S43	北の脇及び中林の海岸マツ林・砂浜		
-	-	-	-	-	S44	大里海岸の海岸マツ林と砂浜		
			-	-	S45	大浜海岸の砂浜		
-	-	-	-	-	S46	蒲生田海岸の砂浜		
			-	-	S47	奥浦新浦小島		
-	-	-	-	-	S48	海老ヶ池周辺湿地		
			-	-	S49	阿南市伊島町の湿地		
-	-	-	M36	大毛島の海岸線と陸域（ウチノ海）	-	-		
			M37	島田島の湿地群	-	-		
-	-	-	-	-	-	-		
			-	-	S50	出島野島園周辺湿地群		



图1 大生態系位置

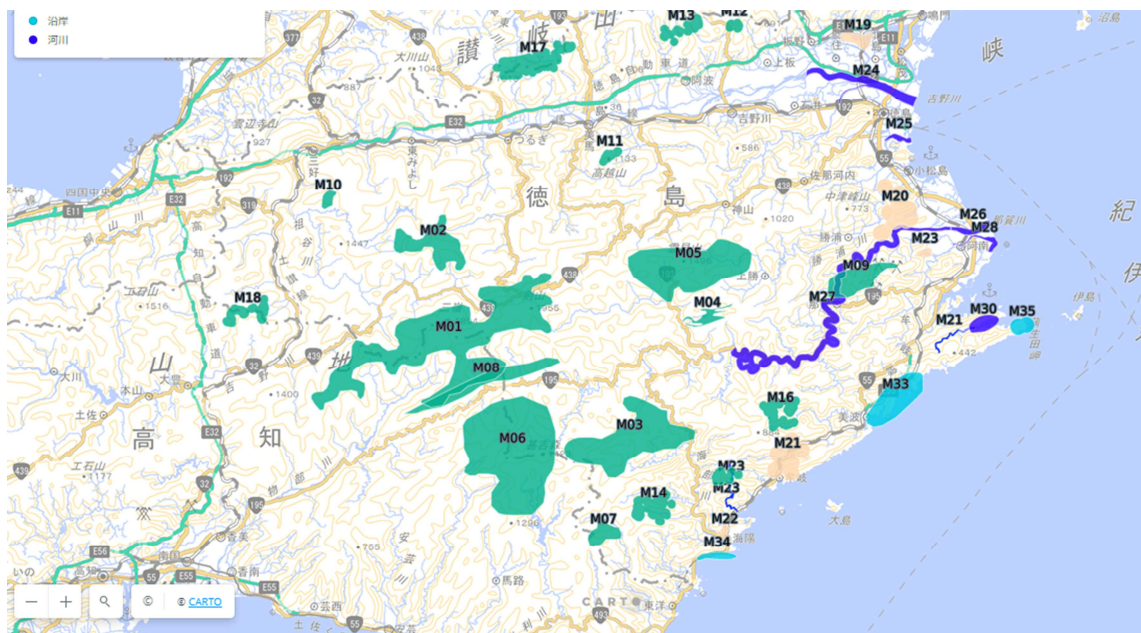


图2 中生態系位置图

